

読書通信

第13号
発行人: amagata

私たちの進むべき道は？

近年、地球温暖化による大型の台風や記録的な豪雨が発生し、甚大な被害をもたらしている。また、マイクロプラスチックは海洋生物だけでなく、人間の身体にも影響を及ぼしている。様々な環境問題にさらされている地球号に乗船している私たちの未来は、不安に満ち満ちている。悲観して手をこまねいているだけではいけない。どのように生きていけばよいのか前向きに考えなければならぬ。そこで今回は、賢者たちの話を聞いてみよう。そこには必ず指針となるべき何かがあるはずだ。この本は倉本聰らが「自らの誇りを捨て、そんなこともお前ら知らなかったのか」という誹謗中傷嘲笑に耐えて幼児の如く何でも訊くこと。そこから生まれたのが、この、一寸恥ずかしい対談集である。」

倉本聰・林原博光「愚者が訊く」(双葉社)

- ・わかりやすい伝え方……池上彰（ジャーナリスト）
- ・極地の海で今何が起きているか……大島慶一郎（海洋学者）
- ・ミツバチが教えてくれる環境汚染……山田英生（養蜂家）
- ・宇宙から環境問題を解く……松井孝典（理学博士）
- ・サルを通してヒトをみつめる……山極寿一（人類学・霊長類学者）
- ・なぜ日本人は原発の嘘を信じたのか？……小出裕章（原子核工学者）
- ・段々畑に染み込んだ農業の真実……山下惣一（農民作家）

倉本聰・林原博光「愚者が訊く その2」(双葉社)

- ・動物を知る、自然を知る、生命を知る……久保俊治（熊ハンター）
- ・小菅正夫（旭山動物園前園長）
- ・「土」とともに生きる……中島正（思想家）
- ・「想定外」を想定せよ……河田恵昭（防災研究者）
- ・石油はあと何年でなくなる？……石井吉徳（「もったいない学会」名誉会長）

・人口増加と人間の命との関係……石弘之（環境ジャーナリスト）
・幸せな節電生活……稲垣えみ子（元朝日新聞編集委員）
・発酵食品が育てた日本人の体と心……小泉武夫（発酵学者）
・「ホンモノの森」「ニセモノの森」を知る……宮脇昭（植物生態学者）

【本文からの抜粋】

倉本 オス蜂はその生殖以外の仕事は、何をするんですか。

山田 何もありません。

倉本 働かないんですか？

山田 生殖だけです。交尾期が済んだら、基本的にオス蜂といふのは用無しなんです。

林原 交尾は、1回ですか？

山田 1匹1回です。交尾すると死ぬんです。

林原 じゃ、一生に一遍しかセックス出来ないんですか？！

山田 働き蜂が刺すと死ぬのと同じで、オス蜂も1度交尾すると死んでしまいます。蜂は針を刺すと、針が外れていきますよね。ああいう具合で、オス蜂も生殖器が外れるんです。

山田英生「ミツバチが教えてくれる環境汚染」

倉本 僕は今、人類は退化していると思います。一技術の便利さに流されて、精神的にはどんどん退化していると感じますね。

山極 まさしくそんなんですね。そして最大の問題は、今の資本主義の経済優先社会は早晩立ち行かなくなるだろうと、いつことなんですね。お金さえ払えば何でも手に入る贅沢な時代が終わるのは、ホント目の前なんです。

倉本 だから、先の大震災と原発事故はそれを改めるラストチャンスだったと思うんですが、少なくとも日本人はそれを逃しましたね。

山極寿一「サルを通してヒトをみつめる」

小菅 考えてみたら、昆虫で脂肪が多いんですよ。高脂肪高タンパクで非常に効率のいいエネルギー源なんです。そしてデンプンがないから、太らないです。

林原 成程、理想的なんですね。

久保俊治・小菅正夫「動物を知る、自然を知る、生命を知る」

倉本 あれがおいしかった記憶があるんですが、多分、お袋もきちんと洗った手で握ったでしょうけど、今みたいな清潔な環境じゃないから、菌もいっぱいいていたような気がするんです。でも、そのお袋の菌が、おむすびを通して体の中に入ってきて、それが僕らの体を強くしたんじゃないかって思えて仕方がないんだけど。

小泉武夫「発酵食品が育てた日本人の体と心」

20世紀の後半と同じように、これから先の21世紀の世の中はまたまた大きく変わるだろうと思うが、問題はいい方になるか、悪い方になるかだ。世界の科学者たちの予測を見ても、21世紀は決して楽観的な世紀ではない。

林原博光「おわりに」

後記

手袋をした料理人には違和感を覚えます。抗菌、抗菌と声高に叫べると、人間がどんどん軟弱になってしまふような気がします。もうそろそろペットボトル、やめませんか。スマホに依存すればするだけ、人間の能力は低下するだけです。科学の進歩は、人間の進歩ではありません。



「読書通信」
バックナンバー